

# 磐城時報

第九十期  
編輯 石城郡平町野田十四  
印刷 石城郡平町野田十四  
發行 石城郡平町野田十四  
電話 石城郡平町野田十四  
廣告料 一行十文字 一月五拾錢  
日刊 (日曜 祭日) 休刊

## 唐土警中校長 奈良縣に榮轉

### 第二の郷里を去るのが嫌 唐土齊治氏語る

縣立警城中學校唐土齊治氏は大正十一年三月縣立安積高女に轉じ縣下に奉職すること九年三月、この間警中三年三月奉職したが、別項の如く奈良縣立郡山中學校長に榮轉されることになつた同氏は、

兵庫縣赤穂町に生れ同龍野中學卒業、明治四十二年三月東京高師卒業、香川縣師範、徳島縣師範主事を經て大正十一年三月本縣安積高女、十二年四月田村中學、昭和二年二月磐城中學に轉じた

## 平局の交換嬢 共電機交換練習

### 千葉技手等と仙臺で 實施は七月一日から

平郵便局では新築廳舎も近く竣工、現在の單式電話も新築同時に共電式に改められるので現在の交換手では間に合はないので、過般第一回練習生千葉技手外交換手六名は仙臺通信局において練習中であるが二十日修了、第二回は二十一日から菅谷書記外五名である。

## 修築陳情

石城郡豊間漁港は現在八十間の防波堤を有するも港内の水面積狭く、ために東南より強烈な波浪が浸入し却て漂砂のため船舶の出入礙弊は絶望の状態にあるので本縣が明年度豫算編成に當り

漁港修築の計劃ある事を聞き込み逸早くこれが猛運動を開始し、十八日同町志賀町長から明年度においては是非修築工事を行はれたいと小柳知事に對し特別の配慮方を懇願して来たが、この配慮方を懇願して来たが、これを皮切として今後各港の關係町村から嘆願陳情があるものとみられてゐる。

## 夫に妾を押しつけ 財産横領を企つ

### 平署人事相談所に願出づ 夫を准禁治産とする

石城郡神谷村大字上片寄農業新に出頭鯨岡警部補の裁まで、妻熊太郎(三八)は相當な財産家にして二百圓を贈る事として一同が策動して石城郡永戸村大字合戸遠藤ルイ(二二)といふ女を夫に押しつけて妾として之を口實にして石城郡草野村の實家と相談の結果放蕩者であるとしては毎年小量の降雨でも河水氾濫を准禁治産とし財産横領を企て、その後夫の要求で准禁治産で、先年來河川改修工事中だがを解くに當り財産全部を妻の弟の便を不良にするため却て水害の名義に書替へた、低脳とは言の便を不良にするため却て水害の妾と別れるから財産の名義を書替へたいと迫つたが今度は何も替へないといふ二歳の子まで産んだ妻遠藤ルイが別れるなら手切金欲しいと言ひ出し退着を起して手野崎信氏外二名の來援を得て七月二十日午前九時から平町谷口樓で素談會を開催する。

## 取拂陳情

石城郡玉川村内貫流の藤原川は毎年小量の降雨でも河水氾濫を起し甚大なる被害を與へてゐるのて、先年來河川改修工事中だがを解くに當り財産全部を妻の弟の便を不良にするため却て水害の名義に書替へた、低脳とは言の便を不良にするため却て水害の妾と別れるから財産の名義を書替へたいと迫つたが今度は何も替へないといふ二歳の子まで産んだ妻遠藤ルイが別れるなら手切金欲しいと言ひ出し退着を起して手野崎信氏外二名の來援を得て七月二十日午前九時から平町谷口樓で素談會を開催する。

## 觀世素談會

匠町觀世流謡曲鳥越一氏はワキ手野崎信氏外二名の來援を得て七月二十日午前九時から平町谷口樓で素談會を開催する。

## 第二回中等學校野球大會

六月二十一日(土)午後二時より 相馬中學 對 双葉中學  
六月二十二日(日)午前八時半より 磐城中學 對 安積中學  
六月二十二日(日)午前十一時より 田村中學 對 相、双の勝者  
六月二十二日(日)午後二時より 決戦

選手入場式 六月二十二日午前八時  
選手宿舎 住 吉屋本店  
入場無料 主催 磐城時報社

### 各校選手の 應援團體を募る

安積、田村、双葉、相馬、磐城各中等學校野球選手を應援する團體を募ります。

●月極廣告御契約者にして御招待券御入用の各位は御申越被下度候

## 野球大會に出場する 五中學の選手

磐城中學校	投手 菅野三郎、佐藤芳雄	捕手 大平讓	遊撃 阿部藤男、布谷敏雄	二塁 吉田信雄	一塁 小野一雄	遊撃 朝妻仲治	二塁 佐藤芳雄	一塁 大越重義、下山田勇	投手 雙葉中學校	捕手 渡邊助	遊撃 中里龍清	二塁 新田秀敏	一塁 太田秀昂
相馬中學校	投手 宇佐見武	捕手 川村成一	遊撃 井上義美	二塁 光家定喜	一塁 今村米雄	遊撃 大谷善吉、脇坂誠	二塁 川久保定義	投手 安積中學校	捕手 佐藤賢一、横井正	遊撃 三村弘	二塁 萩原仁	一塁 末本勝彌	投手 高橋正太郎
田村中學校	投手 飯田義雄	捕手 石田正胤	遊撃 佐藤東四郎	二塁 宮本正	一塁 宮本正	遊撃 秋田、坂本	二塁 前川、清	投手 田村中學校	捕手 秋田、坂本	遊撃 前川、清	二塁 橋本、本(喜)	一塁 橋本、本(喜)	投手 橋本、本(喜)

### 夏井川の鮎

八九寸の粒捕  
隣縣茨城の鮎解禁日は六月一日であるが、本縣は一ヶ月遅れの七月一日なので石城地方の大公望連は勿來を一寸またいで磯原から高萩方面で盛んに鮎釣りを行つてゐる。然し茨城縣の各河川にのぼつてゐる鮎は何れも小さい五六寸は珍らしい方であるのに反し目下石城郡川前方面から小川郷附近の夏井川に銀鱈を獲らしてゐる鮎は八九寸位の粒をろひて來てゐるので大公望連は腕を撫して七月一日を待ち構へてゐる。

### 五色葵 讓る

平町新川町  
**中野勇吉**  
電話一三三番

### 大井川等釋放

十三日平署に檢束された舊勞農黨員大井川幸隆外四名は引續き取調べ中であつたが過般小田炭礦に配布した宣傳ビラに關する出版法違反として書類を檢事局に送る事とし身柄は十八日午後七時釋放した。

### 東電營業所 整理縮少

東部電力會社では今回合理的經營法として郡山支店區域内の平四倉、小野新町各營業所に奉仕係なるものを新設する事となつたと同時に従來の調査係及經理係りの二係を郡山支店に移管する事に決しこれに伴ふ人事異動が茲一二日中に行はれる筈で平

營業所員にも郡山、水戸兩支店詰となるもの二三名ある見込である。右に關し武田平營業所主任は語る。

經營を合理的に行ふ上からいふまでもサービスの改善といふ点に重きを置かねばならぬので、奉仕係なるものを設けた譯です。たゞ調定經理の二係が支店に移管するのので相當不便があるだらうと懸念もあるやうですが、研究の結果です。然し調査カードがなくなつたので臺帳の相違などといふ問題が起つて見えて貰いたい。その注文があつた場合だけは支店に問合せねばならぬので幾分遅れる事はなせませう。

親父無錢飲食 平町村の一精神病者があつたがこれからは農繁期等のため家人は監視を怠り勝ちと云ふのを好期と町三丁目飲食第一新橋方に登樓酌婦小山田ミチヲを相手に遊興をなし、勘定を支拂はないので無錢飲食として平署の取調べを受けた。

### 梅雨時と 精神病者

いよゝもつて本調子となつた梅雨は降るでなし照るでもなしと言つた具合です。憂鬱さを感じさせてゐるが、この梅雨時になると石城地方には毎年發作的に來る精神病者が非常に多く現れ、殊にさうした者等は無暗矢鱈に殺傷沙汰を起すので平署鼻の藥、チクノール、平五山野邊藥局

### 初夏……サロンの新装

店内に新緑の氣分を集め、皆様の御期待に添ふ  
**アイスクリーム (十五錢)**  
ドウツ御用命を……

田町 **サロン**  
電話三五二番  
サロンの公休は毎月(第三日曜)

治淋新劑 絶無廣く賞讃さるゝ所以也  
**強タカジリン**

特約店 大平屋藥店  
平町一丁目 電話四六二番

### 貸家あり

平町新川町十七番地  
商店向き  
家賃十四圓五十錢  
平町新川町 電話一三三番

### 中野勇吉

廿日替り  
老人も一度は必らず見下さい

マキノ超々特作  
カントク總出競演  
天保時代 學生三代記  
明治時代 十八卷全部上映  
昭和時代 オールスター  
マキノ夏季特作  
マキノ十郎主演  
時代談 道中双六  
怪談 土曜マキノ有聲座  
ヒル 帝キネ有聲座  
次週 村上浪六原作  
公開 かまいたち

◆十九日より開館十五週年  
第二回記念謝恩興行  
日活超々大作映畫 光岡龍三郎 酒井米子 主演  
貝殻 平

愛 現代劇 栗島すみ子  
林長二郎主演  
さくらんぼ 時雨  
松竹 平館 電話四六六

佛國マルソー會社元詰  
**生葡萄酒**  
マルソー・フランク・白 1.10  
マルソー・ルージュ 赤  
良品にして安價實行飛ぶが如し  
西村屋藥局

榮共ト存共△  
融金ノ易簡△  
蓄貯ノ味趣△  
圖堅ト意識△  
會商盡無城磐

外科 花柳病科 專門  
平町六丁目橋際  
**木村外科醫院**  
電話三〇九番

鎮咳液  
セキノ薬  
秘薬  
特約店 關内藥局  
番〇四話電 目丁四町平

父教養院鐵心日雄居士告  
別式の際は御多忙中遠路  
態々御燒香被下且つ御鄭  
重なる御香奠を賜はり御  
厚情の段奉感謝候茲に乍  
略儀以紙上御厚禮迄如斯  
御座候  
昭和五年六月十九日  
副子 加治孝司  
親戚總代 端山正男  
友人總代 青沼鋒太郎